



林野庁北海道森林管理局

発行日 2009/02/02

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

インフォメーション

当センターは国有林をフィールドとして北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取り組む NPO 等の活動支援や森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導などを行っています。

森林環境教育の取組

学校でドングリの苗木を育ててみませんか！

当ふれあいセンターでは、標茶町雷別国有林のトドマツ人工林立ち枯れ地に於いて、郷土樹種の広葉樹で森林再生を図る自然再生事業を実施しています。森林再生に使用する苗木は、雷別事業地近くの広葉樹のタネを採取して育てていきます。植栽する樹種は事業地にある広葉樹の中でも、構成割合の高いミズナラ、カシワ、ハルニレ、シラカンバ、ヤチダモ、キハダ、イタヤカエデの七種です。タネの採取から植栽できる苗木の大きさまで育てるには大変な苦労が必要ですが、昨年は、ミズナラ、ハルニレ、シラカンバのタネは豊作でしたが、イタヤカエデ、ヤチダモは凶作でした。

昨年、ミズナラのタネ（ドングリ）を約六〇〇〇粒拾うことができました。このドングリを事業地や発泡スチロールの苗床に播きました。残りは春播き用として冷蔵庫や森の中に穴を掘って保存しています。

この保存してあるドングリを校内菜園で野菜と一緒に播いてみませんか。ドングリを播いて、芽が出たら水かけや草むしりを行い、三年間ほど育てた苗木は雷別に里帰りして植栽します。この森林を再生する取組に子ども達にも参加してもらいたいです。森、川、湿原、海へとつながる環境学習への取り組みにもなるのではないのでしょうか。

タネ播き、苗木の育成、育った苗木の雷別への植栽などについては、センターがお手伝いします。ドングリは長期の貯蔵ができません。今年の春にはすべて播き付けなければいけません。



(雷別事業地の様子)



(ドングリの芽生え)



(タネ採りの様子)



(植樹の様子)

こんな育て方もできます

で、参加ご希望の学校は必要なドングリの数など四月末までにはご連絡をお願いします。

(担当・國井、白藤)

ドングリを春に校内菜園に播いて芽が出たら、マルチキャビティコンテナという特殊な苗木育成用のトレイに移植します。



(マルチキャビティコンテナでの育成)

水かけ、草取りが簡単に行き、観察もしやすいです。また、根がコンパクトなことから、育った苗木を植樹する時に子ども達でも穴掘りが楽にできます。また、コンテナ苗専用の植付道具を使用すると簡単に、早く植樹することができます。



(コンテナ苗専用植付道具)

森林環境教育支援 のお知らせ

当センターでは、平成二十一年度も学校での森林環境教育に係わる支援の取組を行います。支援の内容を紹介しますので参考にしてください。支援内容は五〇分程度を一単元として、二単元、三単元の組合せで実施できます。

一単元の場合

森林の働きを、紙芝居又はスライドにより学習します。

二単元の場合

一単元に加え、野外で校庭の樹木の太さや高さを測り、炭素貯蔵量の算出を学習します。

三単元の場合

一・二単元に加え野外で校庭の樹木の太さや高さを測り、炭素貯蔵量の算出を学習します。

その他

「花炭づくり」や「学校菜園での苗木栽培」などの体験学習も用意しています。

すべて経費はかかりません。

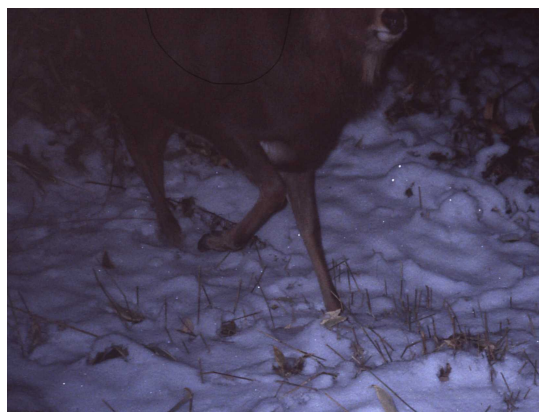
(無料です)



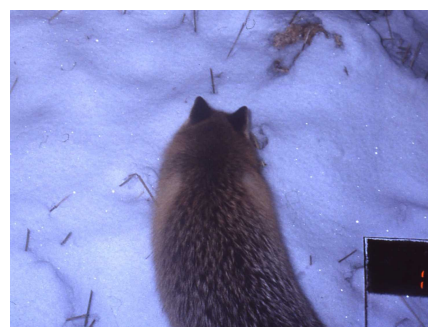
茶町雷別の自然再生事業地で撮影された動物たちを紹介しします。

ふれあいセンターでは、雷別地区国有林内に自動撮影カメラを設置してエゾシカの生息動向を観察しています。撮影画像にはエゾシカ以外にも様々な動物が写っています。昨年12月に撮影されたものの中から何枚か紹介します。

(エゾシカは、近年生息数の増加により植生に与える悪影響が懸念されていますが、雷別でも最も多く撮影される動物です。)



(エゾリスは、ドングリなどを地面に埋めて冬の食料にしますが、ドングリにとっても越冬手段として無くてはならないものです。)



(キタキツネは、野ねずみをよく捕らえますので樹木の食害を防除してくれますが、エキノコックスにはご注意ください。)

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

〒085-0825 釧路市千歳町6-11

TEL 0154-44-0533 FAX 0154-44-0534 (3月までの予定)

URL http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/fc/kushiro_hp/

E-mail h_kushiro_f@rinya.maff.go.jp